

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4070502440		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	小倉南ケアセンター和が家		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区津田1丁目5 - 16 (電 話) 093 - 474 - 2118		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月19日	評価確定日	平成22年2月23日

【情報提供票より】(平成21年11月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 7.7 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有 (140,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要 (11月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低 74 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	北九州総合病院・木村内科外科医院・萩原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

複合型介護施設「小倉南ケアセンター和が家」は、1階がデイサービスとケアプランセンター、2階が2ユニットのグループホームとなっており、地域の中で必要となる社会福祉事業の展開を理念として掲げている。「グループホーム和が家」は、入居者と職員がお互いのコミュニケーションを大切に、協力し助け合い、共に明るく楽しく安心して過ごしていく事を理念としており、利用しやすい料金設定での住環境を提供し、可能な限り自立した生活維持の支援を行っている。開設5年目を迎えようとする中で、少しずつ重度化がすすみ、「今」できる事は何かを常に考えながら、日々の暮らしをともに過ごしている。家族や医師、職員による連携体制が充実する中で、終の棲家として、本人・家族が安心して過ごせるよう取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員研修については年間計画を作成し、特に認知症についての勉強会は毎月行っている。また、外部研修参加についても、習熟度に合わせた受講支援をしている。また、ケアの実践・評価を解り易くする為の記録の工夫等を行い、どちらも良い成果を得ている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成は、職員全員で分担し実施している。それを全体会議で協議し、サービス向上の課題としている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期開催されている。土・日曜日に開催し、家族の積極的な参加があり、かかりつけ医が参加する事もある。事業所からの報告だけでなく、意見や要望など、気軽に話しあえる状況になってきている。今回の外部評価も会議にて報告し、助言・指導を得ていく予定としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	入居時に苦情・相談窓口について説明し、職員は日頃から家族の要望に耳を傾ける事を心掛けている。またホームとしてより多くの意見を伺う為、家族会の設置を提言したが会の責任者への負担が多くなるとの事で、運営推進会議への参加とし、現在多数の参加を得て、意見や要望などを積極的に伺う機会となっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の運動会や夏祭りに参加している。入居者の重度化に伴い、地域行事・活動への参加が困難となってきているが、小人数対応で機会を作るように努めている。地域の方々の協力を得ながら、ホーム行事への案内も含め、地域へ向けての積極的な情報発信を行なうことにより、ふれあう機会の確保や福祉拠点としての存在をアピールしていくことを期待します。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	小倉南ケアセンター和が家として、「ご高齢者が地域でいつまでも和やかに、安心して暮らすために必要な社会福祉事業。」と理念を掲げ、グループホームとしても、独自の具体的な基本方針を示している。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や方針を、職員全員がケアの基本と捉え、毎朝唱和する事で、業務本位ではなく、常に入居者本位のサービスの提供に結び付けて考え、実践していく事を一日の始まりとしてしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の運動会や夏祭りに参加している。入居者の重度化に伴い、地域行事・活動への参加が困難となってきたが、小人数対応で機会を作るように努めている。	○	地域の方々の協力を得ながら、ホーム行事への案内も含め、地域へ向けての積極的な情報発信を行なうことにより、ふれあう機会の確保や福祉拠点としての存在をアピールしていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成は、職員全員で分担し実施している。それを全体会議で協議し、サービス向上の課題としている。外部評価の結果を踏まえ、全体会議や運営推進会議などで検討を行い、改善策に取り組んでいきたいと思っている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期開催されている。土・日曜日に開催し、家族の積極的な参加があり、かかりつけ医の参加も得ている。事業所からの報告だけでなく、意見や要望など、気軽に話しあえる状況になってきている。今回の外部評価も会議にて報告し、助言・指導を得ていく予定としている。		

小倉南ケアセンター 和が家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携を主体として、地域のグループホームのネットワークが構築されている。市の主催する研修会には必ず出席し、サービスの向上にかなげるよう取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	これまでの制度活用に向けての支援の過程において、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めてきた。パンフレットも常備しており、情報発信が行なえる体制にある。外部研修にも参加しており職員間で知識が共有できるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の方々の写真やコメントをいれたホーム便りを毎月発行しており、状況に応じて電話連絡を行なっている。金銭管理については毎月の請求書と同封したり、家族来訪時に生活状況なども含めて報告している。家族との連絡を密に取り、ホームでの生活状況を解り易く説明することで、信頼関係の構築に努めている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情・相談窓口について説明し、職員は日頃から家族の要望に耳を傾ける事を心掛けている。またホームとしてより多くの意見を伺う為、家族会の設置を提言したが会の責任者への負担が多くなるとの事で、運営推進会議への参加とし、現在多数の参加を得て、意見や要望などを積極的に伺う機会となっている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしている。入居者へのサービス低下やダメージを防ぐため、運営者や管理者は職員が働き易い環境作りについて努力し、現在はサービス提供体制強化加算を受けてる状況である。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用については、定年制があるため年齢制限はあるがその他は特にない。法人として募集しており、「高齢者が好きな方、大切に想える方」を求めている。職員の個性が活かされ、自己実現が出来るよう勤務時間の調整など、柔軟な対応を行っている。		

小倉南ケアセンター 和が家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	「接遇マニュアル」「人権マニュアル」を作成し、法人内での研修を行なっている。特に言葉使いや日々のケアでの対応には注意を払っており、日常的に人権についての配慮に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	研修計画を作成しており、外部研修にも本人の希望や習熟度に応じた研修参加支援を行なっている。新人職員にはトレーナー制度を設けており、教育計画にあわせて中堅職員が指導する中で、指導する側の自己啓発にもつながっている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	地域包括支援センター担当者の尽力により、地域でのグループホームのネットワークが構築されている。また研修等の機会を通じて、新たな関係づくりにも積極的に取り組んでおり、今後のネットワークの更なる有効活用が期待される。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用	安心してサービス利用が出来るよう、面接では本人・家族の思いを十分に伺うと同時に、生活環境や身体状況の把握に努めながら、見学から体験利用と進めている。体験入居は1週間とし、本人・家族の納得と職員の状況判断で、利用の開始を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係	入居者と職員が、お互いに協力しあって生活することを理念としており、支援が一方的にならないよう日頃からのコミュニケーションを大切に、心が通じ合い支えあう関係になるように努めている。また、職員は入居者より、生活の知恵や経験を活かしたアドバイスを受ける等、教えてもらう事も多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

小倉南ケアセンター 和が家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しずつ介護度が高くなっていく中で、生活支援中心になりがちであり、暮らしの希望や意向の把握については重要な課題であると考えている。職員は日常の些細な言葉や行動の中から、本人の望みを汲み取ったり、家族にも協力を仰いでいる。センター方式の活用を検討中であり、充実に期待したい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、担当職員や計画担当者のみの意見とならないように、職員全員での協議で作成している。アセスメントはフローチャートを利用して、状況の把握を正確に行い、入居者・家族の要望を大切にしている。		
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常にケアプランを意識しながら支援を実践しており、担当者はその内容については正確な記録になるよう心掛けている。その中で変化が生じた場合は計画の見直しを行っており、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のデイサービスの行事に参加したり、フロアに散歩に行くなど、活動範囲の拡大に役立てている。また、外出時にはデイサービスの車両を借用し、車椅子の方も気軽に外出する事ができる。入院時には医療機関と連携し、早期退院へ向けての支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選択は本人・家族の希望を第一としている。ホームのかかりつけ医は、北九州市の「ものわすれ外来」の協力医院であり、2週に1回の定期的な往診以外に24時間連絡体制も整えている。また歯科・眼科・皮膚科なども必要時受診出来る体制が出来ている。		

小倉南ケアセンター 和が家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「看取り」についての説明を行い同意を得ている。状況の変化に応じて、本人・家族と職員・医師との話し合いを続けながら、可能な限り今までの生活が持続出来るように努力している。医師との充実した連携体制の中で、看取りを行なった経験もあり、本人・家族にとっての最善の方法を検討し、共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に言葉かけや対応が、馴れ合いになり雑にならないよう心掛けており、高齢者の尊厳を大切にした支援について、今後も職員一人ひとりが考え、行動することが責務であると考えている。個人情報については法令順守に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしてのスケジュールはあるが、一人ひとりの今までの生活パターンを大切に支援を行っている。また得意分野や趣味等を把握し、潤いある暮らしの実現に向けて、日々取り組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や調理は1階の厨房にて行われており、ホームでは配膳からが行われている。日曜日はホームでの食事作りを行っている。テーブル拭きや食器拭き等を職員と一緒にいき、ともに楽しく食卓を囲む事で、少しでも食欲増進となるよう雰囲気づくりを行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴を基本として、体調等を考慮しながら柔軟に対応している。ゆっくりと余裕ある時間を確保し、自立度に合わせた支援を行っている。ゆず湯や菖蒲湯を楽しみ、週末には入浴剤を使用する等、入浴を楽しんで貰っている。		

小倉南ケアセンター 和が家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月毎に生活リハビリ担当者を決め、それぞれが工夫しレクレーションや作品作成等、1日に変化をつけて暮らせるよう支援しているが、活動面の低下に対する工夫が必要と考えられる。個別的な生活支援は、本人の持てる力を引き出せるよう一日の生活の中から選んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、車の通りの少ない農道での散歩で、季節の変化が感じられるよう支援している。家族にも協力を得ながら、個々の状況にあわせて、できるだけ戸外に出られるよう支援している。心身の機能低下による現状での日常生活活性化への支援は、いっそうの個別性が求められ、今後も家族等との連携や社会資源の活用も含め、充実に期待したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階入り口はオートロックとなっており施錠している。鍵をかける事の弊害は理解しているが、交通量の多い道路に面しており、安全面への配慮から現在は施錠している。		鍵をかけないケアの実践を模索している状況であり、周辺環境の厳しさも確認できる。安全面の確保と、その人らしい自由な暮らしという視点から、運営推進会議等において、家族や地域住民、行政担当者等を交えアイデアを出し合う等、今後も繰り返し検討していくことに期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に沿って、消防署の協力のもと、年2回避難訓練を実施している。自衛消防隊を組織し、近隣のコンビニエンスストア等に協力を依頼している。	○	夜間を想定した訓練実施等、今後の充実に期待したい。また継続して地域住民への働きかけを行い、連携体制が充実していく事にも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。摂取量の確保についても、食事の形態についての個別的な支援を行っている。また、食後の感想を職員が記入し、栄養改善会議において検討している。水分摂取量については日頃より心掛けており、特に支援の必要な入居者については水分出納表を作成し診療時の参考にしている。		

小倉南ケアセンター 和が家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○ 居心地のよい共用空間づくり	リビングや廊下には、季節に応じた作品を入居者とともに作成し、飾っている。両ユニット間にあるベランダは日当たりがよく、洗濯物干しや日光浴ができるようになっている。ホーム全体に清潔感があり快適に過ごせる生活空間となっている。温度・湿度にも配慮し、快適に過ごせる環境作りに取り組んでいる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入口には、名前プレートや手作りの暖簾等、自室の認識がしやすい工夫がある。家族の写真や飾り物、筆筒や椅子等、愛用品を自宅より持参して貰うなど個性的な部屋作りとなっている。片付けや掃除も、職員とともに行っている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			